

氏名	譚 静
学位の種類	博士（歴史民俗資料学）
学位記番号	博甲第 197 号
学位授与の日付	2015 年 3 月 31 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
学位論文の題目	過山系ヤオ族（ミエン）儀礼神画に関する総合的研究 — 神画と儀礼文献と儀礼実践からの立体化の試み —
論文審査委員	主査 神奈川大学 教授 廣 田 律 子 副査 神奈川大学 教授 小 熊 誠 副査 神奈川大学 教授 佐 野 賢 治 副査 東京学芸大学 教授 吉 野 晃

【論文内容の要旨】

本研究はミエン・ヤオ族の儀礼において使用される神画上に描かれた内容を丹念に読み取ることからはじめ、儀礼で使用される経典等の文献資料と儀礼の実践とを接合させて分析することで神画の本質を立体的に明らかにしようとした論文である。

論文の構成は以下の通りである。

第 1 章 序論—問題の所在—

- 第 1 節 過山系ヤオ族（ミエン）儀礼神画研究の課題
- 第 2 節 研究方法と研究目的
- 第 3 節 過山系ヤオ族（ミエン）儀礼神画の現地調査
- 第 4 節 論文の構成

第 2 章 湖南省永州市藍山県過山系ヤオ族（ミエン）の概況

- 第 1 節 人口・分布
- 第 2 節 自然環境・生業
- 第 3 節 年中行事・宗教文化

第 3 章 過山系ヤオ族（ミエン）儀礼神画について

- 第 1 節 過山系ヤオ族（ミエン）儀礼神画とは
- 第 2 節 過山系ヤオ族（ミエン）儀礼神画の現状
- 第 3 節 過山系ヤオ族（ミエン）儀礼神画の種類と名称
- 第 4 節 湖南省永州市藍山県過山系ヤオ族（ミエン）の祭司と神画

第 4 章 過山系ヤオ族（ミエン）儀礼神画に描かれる内容の分析

- 第 1 節 分析に用いる神画資料について
- 第 2 節 読み取りの対象と神画内容異同表について
- 第 3 節 異なる過山系地域の同種の神画に描かれる内容の異同
- 第 4 節 神画に書かれる銘文について（別冊・表 20）
- 第 5 節 神画に描かれる神々について

第5章 儀礼文献に記される神々に関する記述の分析

第1節 請聖書と賞光書について

第2節 儀礼文献に収められる神画に描かれた神々に関する記述

第3節 儀礼文献から見た神画に描かれる神々

第6章 儀礼実践から見た過山系ヤオ族（ミエン）儀礼神画の使用

第1節 神画を用いる儀礼について

第2節 儀礼神画の所持及び使用の資格について

第3節 過山系ヤオ族（ミエン）儀礼神画の開光儀礼について

第4節 儀礼実践から見た神画の使用

第5節 過山系ヤオ族（ミエン）儀礼神画の持つ意味

第7章 結論

第4章・第5章・第6章の要約

儀礼神画の特殊性と普遍性

儀礼神画と儀礼文献と祭司と儀礼実践との関係

今後の課題

第1章の序論は、これまでのミエン・ヤオ族の儀礼神画に関する先行研究を批判的に分析することによって、本研究の課題と方法を述べる。

第2章は、主たる調査地の湖南省永州市藍山県におけるミエン・ヤオ族の概況を述べる。

第3章は、ミエン・ヤオ族の儀礼神画の定義を行った上、儀礼神画の種類と名称等について解説する。

第4章は、神画の中身について分析を行い、分析対象の神画は中国湖南省永州市藍山県の3組、同江華県の2組、広西壮族自治区恭城県の3組、タイ国ナーン県ムアン郡の1組、台北世界宗教博物館所蔵の1組、日本南山大学人類学博物館所蔵の1組の計11組約200件にのぼる。

描かれた内容により、元始天尊、靈寶天尊、道德天尊、玉皇、聖主、四府、張天師、李天師、把壇師（趙元帥）、馬元帥、王靈官、鄧元帥、大海幡、十殿、海幡張趙二郎、太尉、三將軍、監齋大王、総壇、禁齋、庫官、王姥、四府功曹の23種類に分類し、内容分析にあたっては主神と脇侍、配置、顔の向き、姿勢、持ち物、冠り物、乗り物、髪・眉・髭の色の項目を設定し、図表にまとめ提示し、比較対照を行う。神画に記されている銘文の解説を進め、製作された種々な状況について解明する。

神画の細かな読み取りを通して、個々の神の特徴を明確にし、神の階位にまで言及する。地域の異なる同種の神画に描かれる内容の異同を明らかにし、神画の地域的な特殊性と普遍性について論述する。さらに道教からの影響とミエン・ヤオの独自性について推論を進める。

第5章は、藍山県の儀礼において使用される経典（儀礼文献）に収められている、神画に描かれる神々に関する記述に着目し、すべての神についてそれぞれの記述の解説を行い、記述された神々の容貌や服飾や持ち物などの特徴を明確にし、儀礼神画と儀礼文献との対応関係について論及した。

第6章は、藍山県の「掛三灯」と「度戒」等の儀礼実践における儀礼神画の使用状況とそこから見いだせたことについて論述する。

神画自体神兵を象徴的に表現したものであると推論し、通過儀礼の「掛三灯」儀礼の分析により、受礼により伝授されると考えられている「下壇兵馬」の神兵は4件の神画からなる「行師」と称される神画に表現されていると結論している。

さらに通過儀礼の「度戒」儀礼の分析を進め、受礼により伝授されると考えられている「上壇兵馬」の神兵は、十数件の神画からなる「三清兵馬」と称される神画に表現されると論を展開している。

実際の開光儀礼の内容と他地域で使用された文献の中に見いだした開光儀礼にかかわる「開光表」「開光疏」の記述内容を接合させて分析することで神画を製作することの意義を考察する。その結果神画製作の意義は神兵を継承することであると結論する。

還家愿儀礼の内容分析及び読誦される経典の内容分析を通じて、複数の角度から儀礼の中で神画を使用する意義について考察を加えるが、中でも神画に描かれた三清神と受礼者との関係について明確にしている。

比較事例として他地域のタイ北部ナーン県ナムガオ村の神画と「掛三灯」儀礼についても言及している。

第7章の結論では、儀礼神画・儀礼文献・儀礼実践を接合させた考察を踏まえて、藍山県の儀礼神画の特性を明確にし、さらに神画の有する意義を祭司の資格と儀礼実践の視点からあらためて掘り下げ結んだ。

【論文審査の結果の要旨】

これまでのミエン・ヤオ族の神画研究は、神画自体の研究にとどまっていたが、本論文では、神画が使用される儀礼の実践、そして儀礼で読誦される経典中にある神画に描かれている神に関する記述や神画製作にかかわる記述等を接合させ立体的に解明しようとした点において、画期的な取り組みでありその独創性は高く評価できる。

ミエン・ヤオ族の神画を複数の地域の11組200件以上収集し、独自の項目を設定し、1件ずつの詳細な読み取りからはじめ、23種類に分類し、種類ごとの特徴の丹念な抽出を行った上、比較分析におよんでいる。過去には本論のように広域にわたる大量なミエン・ヤオ族神画を一同に扱った例はなく、またこのような地道な基礎的作業はなされてこなかった。この努力の成果として本論では数々の新たな知見が導かれ、地域間の不易と変差の解明にも繋がっており、今後の神画研究に多大な影響を与える分析方法と内容を提示しているといえる。

世界各地に分散して所蔵されているミエン・ヤオ族の文献を博捜し、神画に描かれた神や神画製作にかかわる記述を集め、文献の記述内容と神画に描かれた内容を接合して分析することによって、神画に描かれた神の特徴をより一層明確にすることにも成功している。複数の儀礼の参与観察を行い、儀礼実践での神画の使用について徹底した分析を行い、儀礼における神画が果たす機能について明らかにしようとする点も特出しているといえる。神画に直接かかわる開光儀礼の分析では、儀礼の実践と神画製作にかかわる記述とを接合して論が展開されており、筆者の儀礼神画と儀礼実践と儀礼文献から立体化して神画の意義を解明しようとする試みが見事に成功しているといえる。

通過儀礼を経ることによって受礼者が獲得すると考えられている神兵と神画とを結び付けて把握することができることに着目し、神画の所有資格と儀礼での使用と祭司としての儀礼実施能力を接合した解釈を試みているが、論述の積み上げ方が少々荒削りであるものの、ミエン・ヤオ族の文化の核心部分の解明に繋がる可能性のある考察として注目し値する。

本論文は神画単体でなく儀礼の実践と儀礼文献と接合させ立体的に解釈しようとする斬新な研究として、ミエン・ヤオ族の神画研究に新たな道筋を示し、今後の研究に影響を与えるものとして高く評価できる。

ここに博士（歴史民俗資料学）の学位を授与するに相応しいものと審査員一同判断した。